

令和4年度 第2回桜井市地域公共交通活性化再生協議会
会議録

1 日 時

令和4年6月28日（火）14:00～15:30

2 場 所

桜井市 本庁舎3階 災害対策本部室

3 出席者

委員 12名（うち、代理出席6名）、事務局 4名

4 会議の成立

委員15名中、12名出席で、委員の過半数が出席しており、桜井市地域公共交通活性化再生協議会規約第8条第2項の規定により会議が成立

5 協議事項

- (1) 令和3年度 運行実績報告について
- (2) 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業について
- (3) 「桜井市地域公共交通計画」策定事業について

6 資料

- ・ 次第
- ・ 令和3年度運行実績〈資料1〉
- ・ 広報わかざくら〈資料2〉
- ・ 生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）〈資料3〉
- ・ 「桜井市地域公共交通計画」策定事業について〈資料4〉
- ・ 令和3年度 アンケート調査結果（概要）〈資料5〉
- ・ 桜井市の現状の整理〈資料6〉
- ・ 交通事業者等ヒアリング調査について〈資料7〉

7 協議内容

- (1) 令和3年度 運行実績報告について

会 長：桜井市公共交通利用券の利用はどのくらいか。

事 務 局：9,804名の方にそれぞれ1,000円分を発行している。46.8%の利用があった。

- (2) 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業について

辻 委員：新型コロナウイルス感染症の影響により、人の生活が変わり、自家用車やレンタカーの利用が多くなった。計画書は国土交通省に提出すると思うが、事務局案で良いと思う。高齢化が進んでいるほか、デマンド交通の利用者が減少しており、密を避けているように感じる。計画書の内容について、その通りに受け止めてくれるのか疑問。もっとオーバーに書いてはどうか。現状に対して、補助が追いついていないように感じる。

会 長：生活様式が変わったため、移動回数自体が減っている。過疎化や高齢化の影響もあり、今後、交通手段をどうするかを考えていく必要がある。タクシーも夜は稼働しないようになってきており、家で食事をするようになってきている。歓送迎会等の季節の節目の食事会等もなくなっている。現時点においても、コロナ禍がいつ終わるのかがわからない。

大久保委員：コロナ禍となり、バスも減便している。密を避けるよりも、出控えやテレワークが浸透しており、コロナが収まっても、これまでどおりの移動量には戻らない。

会 長：これからは、これまでの制度の状態のままではうまく回せない。不透明な時代であり、先を見越した議論ができればと思っているが、なかなか難しい。コミバスも支援をしてもらっているが、現場がついていけない状態にある。

事務局：国でも認識しており、状況によっては要件を緩和している部分もある。制度そのものの改正という話はないが、国が制度について考えているとは認識している。

関 委員：令和4年度・令和5年度の支援は確定したとは言わないが、コロナ禍が続くと思うので、このまま継続すると思う。

辻 委員：資料1のデマンド型乗合タクシーの利用実績において、穴師・江包地区が3人とあるが、デマンド型乗合タクシーの情報が住民にどのように届いているのか教えていただきたい。この利用者数である場合、デマンド型乗合タクシーを運行する必要があるのか疑問である。

事務局：デマンド型乗合タクシーの情報については、各区の区長に話をして、周知している。利用率が低く、住民にどのくらい理解されているのかはわからないが、今年度の4月に再度周知を行っている。

会長：利用が少ないとデマンド型乗合タクシーの運行がなくなることは地域に話していると思う。計画書について軽微な変更はあると思うが、内容についてはこれで良いか。特に異議はないため、承認することとする。

(3) 「桜井市地域公共交通計画」策定事業について

大久保委員：資料5のアンケート調査結果において、コミバスの集計結果が4路線まとめてされているが、感触として多武峰線による影響を受けていると思う。

事務局：利用者アンケート調査では行き先についての設問があるため、路線別に集計した結果もわかると思う。

会長：コミバスの利用傾向が気になるため、別途、示していただきたい。

熊木委員：利用者アンケート調査から、コミバスでは奈良県外の利用が多いことが明らかとなった。今後、実施されるヒアリング調査において、アンケート調査結果から目的地がどこであったかを把握した上で、ヒアリング候補として観光施設を選定してはどうかと思う。公共交通の利用が多い施設と少ない施設とで聞き取る内容も異なってくる。昨年度のアンケート調査と今年度のヒアリング調査をどうリンクさせるかの戦略を考えて実施してもらいたい。

事務局：ご意見いただいた内容を踏まえ、ヒアリング調査を実施する。

谷澤委員：ヒアリング調査だが、日程はどのように考えているのか。また観光施設のヒアリング結果については共有いただきたい。

事務局：ヒアリング調査は7月に実施する予定である。ヒアリング調査では、事前にヒアリングシートを送付する。また協議会において、ヒアリング調査結果は共有するようにする。

会長：ヒアリング調査は、事務局から示されたスケジュールで進めて良いか。異議がないため、この案で進めることとする。

以上